

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500048		
法人名	医療法人 五紀会		
事業所名	グループホーム白鳥台 さくら		
所在地	室蘭市白鳥台5丁目20-10		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様に決り事を作らず自由に生活できるようにしている。 ・医療機関に隣接している為、緊急時に対応しやすい状況である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193500048&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成20年に設立した当事業所は、「個人の尊重、生きがいの成就、ご家族・地域交流づくり」を理念に据え、利用者一人ひとりのニーズに応じたケアサービスの実践に努めている。運営者は、管理者、職員の自己研鑽やスキルアップの機会を積極的にバックアップして、さらなるサービスの質の向上を目指しており、手厚い職員配置と連携の取れたチームケアは利用者への質の高いサービス提供につながっている。また、当事業所は同一法人の病院に隣接しており、緊急時には24時間対応可能な態勢となっている。週6日勤務の看護職員を配置し、日常の健康管理への配慮も行き届いており、利用者の医療面での安心を支えている。設立後の基盤整備を終え、ケアの質のさらなる向上に向けて管理者、職員が意欲的に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.個人の尊重2.生きがいの成就3.ご家族・地域交流づくりの理念を入職時オリエンテーションで説明し理解を得るようにし、ホーム内への掲示、スタッフには理念シートを作成し個々の意識向上に努めている	事業所独自の理念を作成し、新規職員への理解の徹底を図るとともに、会議やミーティング時に理念に沿ったケア実践となっているかを職員間で確認し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内の通所利用者様が散歩途中に寄られたり、地域の小学校の学芸会、中学校の職場体験の受け入れなど交流しているが、今後も機会を増やしていきたい。	地域の小学校に利用者が作成した雑巾を寄付したり、中学生の職場体験学習の受け入れを行っているが、事業所単独としての町内会、地域住民との交流機会は少ない。	事業所としても町内会行事への積極的参加や地域交流機会の増加に取り組む意向である。実現に期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独での活動はできていないが、地域包括支援センター等主催のオレンジネット推進事業等の活動に参加しホームの活動をお知らせしている。運営推進会議に町内会の方等、今後参加して頂くようにしたい			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し入居、退去状況や行事の内容をご家族にお知らせをし、ご家族からの意見も伺いケアに反映させるようにしている。	運営推進会議は2ヶ月に一度、家族、市職員参加で定期的に開催している。会議では、運営状況や評価への取り組みを報告し、意見交換している。会議の内容は全ての家族、職員間で共有し、ケアに反映させている。	今後は町内会役員等、地域住民の参加を要請する予定である。地域住民の参加、協力を得ることで、会議のさらなる充実を期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	室蘭市GH連絡会の席にて市の職員と情報交換を行っています。また、介護申請の手続きや運営についての打ち合わせが必要な時はこちらから出向いています。	市のグループホーム連絡会や介護予防教室で市職員と情報交換を行うほか、必要に応じて連絡や相談を行い、良好な協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束実施ケースはない。身体拘束を含めての虐待を行う事がないように職員同士注意を払い、マニュアル、倫理綱領をベースとし、高齢者に対する尊敬の心を持ってケアにあたるようにしている	全ての職員は身体拘束に関する正しい知識を有し、身体拘束廃止委員会規定に基づき、身体拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉による虐待がないように職員がお互いにケア時の入居者様の様子を観察し防止に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回はパンフレットを基に研修をしているが、前回評価時には、地域包括支援センターの方々に研修や地域の最新情報をお願いする事を目標としていた。今年度は実施できるように調整したいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテーク時、契約時に重ねて説明をし、共同生活を営む上での雰囲気を見学をして頂きながら不安が起らないように配慮している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見聴取や面会時に時間をとって傾聴できるようにしています。	運営推進会議や面会時に意見や要望の聴取に努めており、出された要望は運営やケアプランに反映している。	事業所としては、より多くの家族からの意見、要望を拾い上げるために家族同士が集まり、意見交換できる機会の設定を検討している。実現に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、会議、ミーティングで意見や提案、試みを話し合い、可能な限りケアに反映させている	管理者は申し送りや会議等で、直接職員の意見や提案を聞くほか、業務連絡ノートに職員が自由に提案を書き込み、ミーティングで話し合っケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者へは、運営会議で意見を聞きサポートしている。職員が働きやすいようなシフト表を作成している。主婦の方も多いため家庭と両立できるように工夫している。また、介護職員処遇改善交付金の申請を行い、法人内外部の研修参加も推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回 介護職員行動チェック表で自己評価を実施し、施設長、管理者が面接を行い目標設定をアドバイスするようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市GH連絡会主催の研修会やその他のケアに関する勉強会に参加を促し、他のグループホームの職員と交流できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ソファでゆっくり会話をするなど利用者様の考えを話しやすい環境を作っている。また、入居者様の様子を観察して困っている事などを汲み取れる努力をしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護上の苦労が困りごとをゆっくり話せるようにしている。ご家族が介護疲れや混乱されている事もあるので入居の必要性にズレがご本人と整理している			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事がなんなのかを分析し対応している。在宅サービスの導入で解決できないか一緒に検討している。ホーム入居の希望がある場合は体験入居等での生活している様子をみていただき安心して生活できるように支援をしている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で本人の意思を尊重しながら生活をしている。15時には職員も椅子に座りお茶を飲むようにしている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の入居者様への思いを受け止め、日常での変化に気を配り、連絡を密にしている。スタッフの対応だけでは不安が解消せず、精神的に不安定な時には、ご家族に電話をしたり面会をお願いしたりとご家族と共に支えるように心がけている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のなじみの人との関係継続の支援として、面会時にお部屋でゆっくり談笑できるように声かけている。ご家族の協力を得て時折自宅などに外出する機会をつくっている	馴染みの美容院に出かけたり、家族との墓参りや信仰の継続を支援するなど、これまでの習慣や関係を大切にする支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士の関係を把握して職員介入、その場の雰囲気など気をつけてトラブルが起こらないようにしている。また孤立しないように配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で入院された方の面会には行かせて頂くようしているが、定期的ではないので回数を増やて行きたいと考えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや今まで暮らして来られたよう出来るかぎり、それに近づけるように、努力していると思う。自発的に訴える事も少ないのでこちらから声かけを行ったり、本人と話し様子を見ながら暮らしている。	利用者一人ひとりの生活歴をもとに好みや習慣を把握した上で、日々の生活の中で自己決定や自己選択できる場面づくりをし、利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時にご家族に少しずつ尋ねたり、又、ご本人との会話を持ちご本人の生活暦把を握するための努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや介護記録を読み返し、暮らしの現状を把握するようにしている。また、家事の手伝いやレク活動での様子から持っている力を発揮できるように工夫している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフで意見を出し合い、必要に応じてモニタリングの中で話し合いが進められている	担当職員を中心に毎月モニタリングを行い、個別の記録、家族の意見をもとに職員全員で話し合い、現状に見合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや何か問題に気付いた時は、職員間の情報の共有できるように努力しているが、不十分で行えていないところもある。又、情報共有しながらもケアに活かさないことも多いので課題となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居以前からなじみの美容院へ出かけたり、ホームへ訪問理容院を利用したりご家族と共に外出され食事に行かれたり、外泊も自由にされている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の入居者様への対応にはなっていないが、近隣の小学校の行事を見学したり、職場体験に訪れた中学生と交流するなど工夫している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様個々に合わせて、ご家族、看護師と連携をしている。医師とも連携し必要時インフォームドコンセントをお願いしている。	利用者や家族の希望する医療機関に受診できるように支援している。協力医療機関への受診送迎は職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の健康状態の変化があっても、24時間連絡体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の医療相談員と連携を図り、退院可能なレベルを早い時期から調整し、ホームでの受け入れ体制を整えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の健康状態に合わせてご家族、主治医との連絡を密に行うようにしている。必要時、主治医にインフォームドコンセントをお願いしている。また、体調不調時については協力病院の医師とも相談している。	看取り介護マニュアルを整備し、できるだけ早い段階から家族、主治医と話し合っ方針の共有を図っている。協力医療機関とも連携して、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の状況により初期対応など話し合っているが、定期的に訓練はされておらず職員全員に実践力をつけるように努力したい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルがあり連絡体制を整備している。避難訓練も年2回行っているが、地域の方への参加までは至っていない	消防署の指導のもと、年2回昼夜を想定した避難訓練を行っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	今後は、運営推進会議等で地域住民の参加、協力を要請し、役割分担を明確にして、災害時に備えた地域との協力体制を構築することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人一人のその時の状況に合わせて声かけをし持っている力を発揮して頂くようにケアしている。言葉かけや態度に失礼がないように気を配っている	日ごろから利用者一人ひとりの人格、有する力を尊重し、尊厳やプライバシーを損ねない接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず声かけをして希望を聞き、ご本人に決定して頂くようにしている。職員の都合で押し付けないようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事や体操、レク等を無理強いせずその方のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の行為時、季節感を考えご本人に着る服を選んで頂くようにし、洗面のケアもゆっくり納得いくまで行って頂いている。外出時にもおしゃれして頂くようにご家族にお願いし用意している		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けはできるだけ一緒にできるようにしている。毎食、味付けや硬さなどを話しながら楽しんで摂取されている	利用者の力量に応じて職員とともに食事の準備や片付けを行っている。利用者の好みや食べやすい形態にも配慮して、食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味付けや形状など入居者様に合わせて工夫している。個人の好みの飲み物などを用意し、楽しみながら水分摂取されている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日ごろ努力しているが、全ての入居者様にできている訳ではない。拒否される方などは、年に数回こられる歯科衛生士の協力を得て行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しており、間隔が空いた時には促しを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけなど利用者の状況に応じた援助でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に乳製品を出したり水分チェック表で水分量の確認をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい時間を入居者様に声かけをし選択して頂いている	入浴は週2回を基本として、希望の時間帯に入れるように支援している。入浴を拒否する時には無理強いすることなく、タイミングを見計らって声かけし、気分良く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや居室の温度や湿度にも十分気を配り、入居者様個々の気分や体調に合わせて休息やお昼寝など自由にされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の内容はファイルがありいつでも確認できる。薬の変更などはその都度看護師より説明がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いや他者のお世話を自分の役割として楽しまれているので、一人一人の希望に対応できるように支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの体調や健康状態により、ご本人の希望通りには外出は難しい状況となってきているが、ご家族との外出、外泊の機会がある時は、出かけられるように数日前から準備をしている。	リハビリや受診での外出が多く、利用者の希望に沿った外出は難しい状況になってきている。年2回程度の行事外出と家族との外出や外泊ができるよう支援している。	体調や健康状態に配慮しながらも、地域住民、ボランティア等の協力を得るなどして、利用者一人ひとりの希望に沿った日常的な外出支援の増加が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かりしている事が多い。数名はご家族とご相談の上で所持されている。お預りしている場合もご本人の希望により床屋さんや化粧品購入など、自由に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持しご家族や親戚の方と自由にいつでも電話をしたり手紙を頂くなどしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓があり季節を感じる事ができる。また壁に季節ごとに飾りつけを変えたり、清潔で快適に過ごして頂くようにしている。	季節感のある装飾を施したり、壁面に鮮やかな花の写真などをかけている。不快な音や臭いもなく清潔で居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで他者とかかわりを持てるようにソファなどを配置しゆったり過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、自宅で使用していた家具類を持参して頂き、ご家族の写真や手紙などを置いている	自宅で使っていた馴染みの家具や仏壇、大切な写真などを自由に持ち込み、安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やトイレの便器の高さを工夫し個々の体型や身体状況にあったものを使用している。廊下、浴室にも手すりを設置し浴槽も工夫している		